



# YMCA

## 大阪青年

2005 Oct. 10

No. 577

月刊 TheYMCA 付録  
 編集・発行/日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
 大阪青年 発行: 錦織一郎 編集: 大阪YMCA広報室  
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
 TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297  
 URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
 (年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

2005年度大阪YMCA年間聖句

「励ましあいなさい。思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。」(1ヨハネ3章11節)

### 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神を高く、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

## 創立5周年

## Osaka YMCA International School

# 今 学びをともにするものは・・・

この9月で創立5周年を迎えたOsaka YMCA International School(OYIS)は、3歳児のPre-SchoolからGrade7の中学1年生までの学年を構成するまでに育ちました。

生徒の国籍は日本、韓国、インド、フィリピン、マレーシア、プリキナ・パソ、タイ、台湾、パキスタン、中国、スリランカ、シンガポール、USAなど様々です。

OYISはアメリカ合衆国の学校認可機関であるWASC(Western Associations of Schools and Colleges)の最終審査を11月に迎えようとしています。審査に先立ち提出したレポートに本校の教育理念が宣言されています。それはYMCAの理念であるSpirit(精神)、Mind(知性)、Body(体)のバランスを柱とした全人教育であり、地球規模の課題に視野を持ち、他者と関わり共に生きる地球市民として成長することを目指しています。そしてこの全人教育はFairness(公平)、Respect(尊敬心)、Responsibility(責任感)、Trustworthiness(信頼)、Caring(思いやり)、Citizenship(市民)等の価値を大切に、児童・生徒と教師により実践されています。

英語を共通言語とし、多国籍のこども達が3歳から席を並べるインターナショナルスクールでの学びは、多様な文化や相互理解、意思の伝達を体験することで、極めて有効な「共生」の体験の場であり、学習の場、真実の発見の場、誤解や先入観からの自由を得る場、未来に直結す

る場となります。

国籍や民族、文化の違いは、何を生み、何をもちたすのでしょうか。ユネスコが1982年に出した文化の定義には「文化とは社会や社会集団が持つ精神的、物質的、知的、感情的特性の集合体である。それは芸術や文学とともに、生活様式、人間の基本的権利、価値体系、伝統や信条を含むものである」と表現されています。

2003年日本政府主催で世界33ヶ国・地域からなる36名による第10回グローバル・ユース・エクスチェンジが札幌で開催され、そこではいわゆる「文明の衝突」を強く否定し「文化それ自体は紛争を起こさず、因果関係は無い」とし、また「文化は使い方によっては紛争を概念化し、助長する」、だが「異文化間の共通性は異なる民族を一体化する要素となり得る」との声明が発表されています。

これは軋轢や衝突、紛争は恣意的に人の手によって特有の文化が主張され発生、助長されるものであることを示唆しています。

民族自立や国民国家確立は19世紀末に起こり、20世紀はイデオロギーの対立、いま新たに宗教間の対立が言われています。そのことがもたらした軋轢は時間にして僅かに4世代あるいは5世代間であり、多くは誤解から生じたものです。

イエス様は、だれが、どのグループが「こう言った。ああ言った」で無く、直接的に一人ひとりに問いかけ「あなたはどうか?あなた



はどこにいるのか?」と返答を求め、そして同時に「隣人を自分のように愛しなさい」と話されています。

多様性との「共生」は、刺激的であり、創造的であると同時に危険性をも孕んでいます。その解決には、「生きる」ことへの確固たる個人の信念、そして「隣人を自分のように愛する」個人の信仰が核となるのです。

大阪YMCAインターナショナルスクール  
 みなとYMCA館長 後藤 則之

## 地の塩

▼アメリカの小学校低学年に「Show and Tell」という授業があります。そのまま訳せば、「何かを見せて、それについてお話をしよう」という意味です。内容は、自分が一番大切にしているおもちゃ、絵本、人形など、どれか一つを学校に持参して、みんなの前で「私が、どうしてこのおもちゃが一番好きか」を話す企画です。集団でなく、自分一人で発表するところに特徴があります。▼これは、自分の意見を他人にわかるように表現するコミュニケーション能力をつけることを目指す訓練です。このように人前で、自己表現する機会は、欧米の方が日本に比べ、はるかに多いようです。▼最近、日本の大学でも、Presentation(プレゼンテーション)という授業が始まりました。明確な目的をもって発表、説明、提示することなどを、この授業で訓練します。日本でも、「人前でプレゼンする」テクニックの重要性が認識されて来ている。ビデオやコンピュータの技術を駆使しての「プレゼン」の方法が大きなテーマになってきました。企業では、かなり以前から、顧客へのプレゼンの仕方は大きなテーマです。商品が売れるか否かは、その商品の質、価格などの要因以外に、このプレゼンのやり方に大きく左右されます。▼2012年の夏季五輪の開催地決定に際して、最有力候補のバリーを下してロンドンが選ばれました。国際オリンピック委員会(IOC)の委員の多くが、その選考の理由として、計画の優劣よりも、ロンドンのプレゼンの質の高さを挙げたそうです。▼これからの世の中、プレゼンテーションの技術、質が問われる時代になりました。現在のYMCAの対外プレゼンテーションは、充分効果を発揮しているでしょうか? YMCAが何を表す団体かというミッションが地域社会に充分理解され、私たちの運動が広がっていくためにも、YMCAの対外プレゼンテーションを検証する時期にきているようです。(谷)